

タバコを吸うことは本当に大丈夫か？

クレムソン大学 オースティン・バルジョナ

近年、タバコを吸う人の割合は減ってきた。しかし、現在でも喫煙者はアメリカの人口の2～3割もいて、いまだ多い。公園や街中でもタバコを吸っている人をよく見かける。タバコを吸う理由はたくさんあるが、それらの理由は本当に妥当なものだろうか。

私はタバコを吸うことに反対だ。理由は三つある。

第一に、タバコの煙は健康に悪い。タバコを吸っている人は老けりそうにするのが他の人より早く、肺がんや心臓病、のどや口頭の病気などの病気にかかる可能性が高くなる。さらに、喫煙を続けると視力や聴覚が落ちると言われている。それから、タバコを吸っていると寿命が短くなる。

第二に、間接喫煙の結果が多い。特に子供たちや老人も煙を吸い込んだら、肺の病気になる。さらに、家族や友達も仲が悪くなる。例えば、タバコを吸いすぎたら、煙を広がる。家族や友達から見ると、煙の匂いは好きじゃないではないでしょうか。その人の咳が発達する。でも、タバコを吸っている人は家族や友達にタバコを吸わないように言われたのに、したままだ。それから、家族や友達と仲が悪くなる。

第三に、タバコは環境を汚染する。たばこの煙によって空気が汚れたり、土や海が汚染されたりする。たばこの中には自然や動物に害のある成分が多く入っている。そのため、紙巻きタバコは土の中に落ちた時、土を汚れる。さらに、紙巻きタバコは九ヶ月以上朽ちる。それから、紙巻きの成分は土に汚れる。海や川に捨てた時も水を汚すため、動物や魚に害を与えることになる。海でタバコがたくさんあるので、亀や海鳥も紙巻きタバコを食べる。その結果、海に住んでいる動物を死ぬ。水質も汚れるので、人も死ぬ可能性が高くなる。汚れている飲み水を飲んだら、病気があるのではないのでしょうか。たばこを捨てることにより、様々な環境問題を引き起こすことが多いため、タバコは危険だ。



このように、タバコは吸うことのデメリットが多いため、人はタバコを吸うべきではないのではないかと思います。